

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありません。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P1プロジェクト 原地区第3回勉強会

グループ討議の概要【Aグループ】

今回からステップ3に移行し、代替素案と評価項目についての検討が始まりました。

検討に先立ち、前回からグループ編成の変更があったため、勉強会では貨物駅の賛否についてではなく原地区の将来のあり方を議論していくことを改めて確認しました。

まず、「評価項目（案）」に関する議論では、「評価項目」と評価の対象である「地域づくりの戦略案（代替素案）」の位置付けについて質問がありました。事務局から、「戦略案（代替素案）」とは、貨物駅の代替案ではなく原地区の振興についての戦略案（代替素案）であり、「評価項目」は今後検討する複数の戦略案（代替素案）を評価するための「ものさし」であることが説明されました。また、個々の「評価項目」についての議論では、「避難路が確保できるか」という評価項目について、津波からの避難だけでなく、建物の倒壊や火災等の危険も想定して道路ネットワークが十分かどうかの評価指標が必要との意見が出されました。

次に、「地域づくりの戦略案（代替素案）」について、原地区を「東側ゾーン（市街化区域）」、「西側ゾーン（市街化調整区域の沼川より南側）」、「北側ゾーン（市街化調整区域の沼川より北側）」の3つに区分し、それぞれについて議論が行われました。

共通して、地域資源を活かした観光のまちづくりが重要であるとの認識のもと、各ゾーンについて提案がされました。

まず、「東側ゾーン」では、歴史文化と海岸線を地域資源として活かし、「白隠の道」での休憩所の整備等が提案されました。また、周辺住民や観光客のために、原駅に南口が必要だとの意見が出ました。

次に、「西側ゾーン」では、自然と景観を地域資源として活かし、東駿河湾環状道路と国道1号の交差点付近での道の駅や親水公園の整備等、広域から人を集める療養施設、スポーツ施設、公園等の整備が提案されましたが、「西側ゾーン」は、敷地が細長く、かつ南北のアクセスに課題があり、土地活用のためにはこの課題を解決する必要があるとの意見が出されました。また、貨物駅予定地となっている区域については、貨物駅を整備すれば周囲に物流に関連する事業所が立地し原地区の活性化につながることを期待する意見がありました。

3つめの「北側ゾーン」では、田園風景を守りつつ、ビオトープや体験農園等を整備することで、観光の目玉としてはどうかとの提案がなされました。

さらに、上記3つのゾーンを結び回遊路で結ぶことで、それぞれの地域資源活用の相乗効果が期待できるという意見がありました。具体的なルートとして、白隠の道をはじめとする寺町の散策路、興国寺城跡から伸びる「矢通り」、千本松原など回遊ルートが挙げられました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありません。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 原地区第3回勉強会

グループ討議の概要【Bグループ】

今回からステップ3に移行し、代替素案と評価項目についての検討が始まりました。

検討に先立ち、前回からグループ編成の変更があったため、貨物駅移転へのそれぞれの想いや賛否を越えて、これまでステップ2で検討してきた「地域づくりの目標」に立ち返りながら原地区の将来を議論していくことを改めて確認しました。

まず、「評価項目（案）」に関する議論では、初めて目にする人にも分かりやすい表現とすべきとの指摘や、これまで話し合った課題なども載せてはどうかとの提案がありました。

次に、「地域づくりの戦略案（代替素案）」について、原地区を「東側ゾーン（市街化区域）」、「西側ゾーン（市街化調整区域の沼川より南側）」、「北側ゾーン（市街化調整区域の沼川より北側）」の3つに区分し、それぞれについて議論を行いました。

まず、「東側ゾーン」については、原駅周辺を原地区の「玄関」として位置付けて、原地区全体の地域資源についての情報発信・交流拠点として整備するビジョンが提案されました。さらに、東名スマートICから中央部を南北に貫き原駅や海まで至る道の周辺と原駅周辺を含んだ原地区の「中央部」を交通の南北軸として整備することで、新幹線以北の山側にも、関東圏その他広域地域から企業を誘致することができるのではないかとの意見が出されました。

次に、「北側ゾーン」については、豊かな自然を活かせるような自然公園・運動公園などの整備がアイデアとして挙げられました。

3つめの「西側ゾーン」については、まず、富士山の眺望を最大の地域資源として活用すべきとの提案がされました。さらに、積極的な企業誘致を進め、単に雇用を創出するだけでなく、これらの職に従事する人が原地区に住むことで定住人口も増加するような施策の必要性が示されました。誘致したい企業の例としてシルバーマーケット（福祉・介護・健康）に寄与する企業が挙げられました。また、この区域のあり方を考えるにあたっては、貨物駅の役割やメリットやデメリットを明確にしていくことも必要ではないかとの意見も出されました。

さらに、各ゾーンの地域資源とそれを活かした施策を活かすため、北側ゾーンと西側ゾーンの接点となる東駿河湾環状道路と国道1号の交差点付近に、例えば道の駅のような多機能施設を設けることで、より一層集客効果を高め、各ゾーンを回遊するきっかけができるのではという展望が示されました。

その他、今後の地域づくりにおいては、ハード面の整備は行政が行い、ソフト面は市民が担うようにしてはどうかとの意見がありました。